品川区水辺利活用推進計画　概要版

1 計画の概要

本計画は、水辺利活用ビジョンの目標である『水を感じ、楽しみ、憩える水辺の賑わいの創出』を実現し、品川の都市ブランドを構築・向上するための具体的な取組を示した10年計画です。

計画期間
2025年度 ～ 2034年度 までの10年間
（ 令和7年度　～ 令和16年度 ）

本計画は、品川区内にある水辺のうち、右図に示す河川や運河を対象とします。

品川区の水辺	
天王洲エリア	天王洲運河 品川浦
目黒川エリア	目黒川
勝島・京浜運河エリア	勝島運河、立会川 京浜運河、勝島南運河

対象エリア範囲図

2 水辺を取り巻く品川区の現状

区では、船着場の整備・橋梁ライトアップ・舟運の社会実験などを実施し、水辺利活用の環境を整える取組により水辺の魅力向上に努めてきました。今後は、地元団体・企業等と連携した水辺の利活用方法やまちとの回遊性をセットにしたにぎわいを創出するための仕組みの構築が求められています。

■社会情報の変化

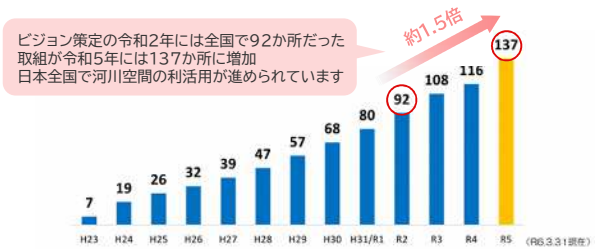
河川空間・運河のオープン化

河川敷地内では法制度の改正により民間事業者による営業活動等が可能になり、運河でも地元主導の取り組みが進んでいます

公共用地における民間事業者による利活用の活発化

道路や公園などでも法制度（ほこみち制度、まちなウォーカブル、Park－PFI）等の改正により、公共空間の利活用が活発化しています

運河ルネサンスの規制緩和により
整備された水上レストラン
（品川浦・天王洲地区）



河川空間のオープン化実施件数の推移
出典：令和6年7月河川空間のオープン化活用事例集
（国土交通省水管理・国土保全局）

ほこみち制度の活用
（神戸市三宮）

■水辺の利活用ニーズ

水辺の快適性を高める

現在の利用形態は通過利用が多いため、休憩施設の設置や水質改善など、滞在したくなるような快適性を高める取り組みを推進することが必要があります

水辺とまちの回遊性向上により観光資源をつなぐ

人気の観光資源である「水辺」と「商店街」を結ぶ仕組みづくりや、まちの回遊性向上による区内の観光ニーズへの対応が求められます

SNS等を活用した多様な情報発信

観光情報の発信や都市ブランディングの展開は、SNS等を活用するなど、多様なコンテンツの活用が求められます

■エリア別の水辺の特性

天王洲エリア	◆ **水辺広場や船着場が点在し、各所で拠点が形成されています** ◆ **アートなど地域資源活用のため、エリア内外の回遊性の向上が求められます** ◆ **日常的な水辺利活用につなげる取組の推進が必要です**
目黒川エリア	◆ 河川沿いに水辺の**拠点が形成**されています ◆ 水辺空間の**快適性を高める**など **回遊性の向上**が求められます ◆ **日常的な水辺利活用**につなげる取組の推進が必要です
勝島・京浜運河エリア	◆施設等の再整備により一層魅力的な**水辺拠点が形成**されます ◆しながわ花海道が地域活性化の起点となっています ◆エリア内に点在する**地域資源とイベント等の取組と連携強化**が求められます

■これまでの取組状況

ハードの環境整備は充実

船着場や船着場の案内サイン、橋梁ライトアップなどのハードの環境整備を推進することで水辺を楽しむ拠点整備は充実しました

東品川二丁目船着場

イベント等に活用できる水辺空間を創出

河川空間のオープン化や、運河等における水辺のオープン化、および公園整備等によって水辺に地域イベントや商業・飲食サービスを提供できる空間を創出しました

水辺の安全性・快適性を支える取組の継続

水辺利活用の推進には水辺に親しむことができる環境を整えることが大切で、施設の維持管理や水質改善等の取組を継続していくことが重要です

滞在を促す日常的な取組へのシフト

水辺空間を活用し様々な“単発の”イベントが実施されていますが、今後は日常的かつ持続的な取組へのシフトが求められます
その活動を支える団体等の体制の強化・育成も重要です

イベント実施状況
（キッチンカー出店）

水辺とまちとの回遊性向上

舟運社会実験や橋梁ライトアップにより形成した水上ネットワークを活用できるよう、今後は船着場と背後地の一体利用など、まち・水辺・水面を魅力的につなぐ取り組みや仕組みづくりが求められます

3 品川区の水辺利活用の方向性

■水辺利活用の視点

２章「水辺を取り巻く品川区の現状」を踏まえ、品川区の水辺利活用検討における視点を整理します。

水辺を取り巻く品川区の現状

- 社会情報の変化
- 水辺の利活用ニーズ
- エリア別の水辺の特性
- これまでの取組状況

水辺利活用４つの視点

支える	活かす	つなぐ	育てる
▸水辺利活用を支える「安全性」「快適性」の確保	▸水辺拠点（ハード）を活用 ▸“日常的な”利用の促進	▸水辺とまちをつなげる ▸水辺を魅力的につなげる	▸持続的かつ自立的な取組へ ・水辺への関心を高める ・日常利用を支える仕組みや体制をつくる

■水辺利活用に向けた取組方針

本計画の目標は、ビジョンの方針を『**水辺利活用4つの視点**』により見直し、各取組をレベルアップすることで、さらなる水辺のにぎわい創出を目指すことです。

◇水辺利活用ビジョンの方針◇

① 水辺を整える	② 水辺を結ぶ	③ 水辺を使う
水辺の環境を活かした拠点の創出	ネットワークの形成	水辺を楽しめる機会の創出

水辺利活用４つの視点

水辺利活用推進計画における取組方針

ベースの取組	水辺利活用に資する取組		
	方針1	方針2	方針3
水辺利活用を支える基盤となる取組	日常利用からイベントまで多様な体験ができる水辺をつくる	水辺とまちの回遊性を高める	誰でも使いやすい水辺利活用の仕組みをつくる
水辺利活用の安全性や快適性を支える取組を継続する	これまで：水辺を楽しむ拠点を整備 これから：拠点を使いにぎわいを創出する （ハードから／ハード・ソフト連携へ）	これまで：水上ネットワークを形成 これから：水上ネットワークとまちをつなぐ （線から／面へ）	これまで：観光イベントや社会実験による活用 これから：取組を日常的・持続的な運用へ （単発の取組から／持続的な取組へ）

4 水辺利活用に向けた主な取組

ベースの取組および水辺利活用に資する取組から個別方針、施策をそれぞれ設定する。

４つの取組方針	１０の個別方針	２２の施策	■ 具体的な取組内容（一部を抜粋）　※ 重点的取組、課を横断して連携が必要な重点的取組
ベースの取組 水辺利活用を支える基盤となる取組	１）水辺利活用の安全性を支える	（１）区有船着場などの施設の適切な管理 （２）東京都などと連携した浸水・震災対策の推進	・船着場の日常点検の実施と将来的に管理・運営を地元団体等へ委託するスキームを検討 ・東京消防庁等と合同で、職員の風水害時における技能向上を目的とした実践的な訓練を実施
	２）水辺利活用の快適性を高める	（１）河川や運河の水質改善 （２）水辺のみどりの適切な維持管理	・東京都や目黒区と連携し効果的なしゅんせつ方法等を検討し、検討結果に基づく取組を実施（写真①） ・「品川区水辺千本桜計画」等に基づき整備された目黒川沿いの桜の維持管理を実施
方針１ 日常利用からイベントまで多様な体験ができる水辺をつくる取組	１）多様な使い方を試行・実施する	（１）日常的な水辺利活用の推進 （２）地域と連携したイベント（非日常的な水辺利活用）の充実	・東品川海上公園船着場における検証利用等を通じた、日常利用と非動力船活動の定着化（写真②） ・目黒川沿いにおけるイルミネーションを継続的に実施
	２）より水辺を使いやすくする	（１）水辺沿いの公園などの整備・機能向上 （２）旧東品川清掃作業所跡地と連携した水辺拠点の形成 （３）しながわ水族館を中心とした水辺拠点の形成	・「子どもの森公園」の整備に合わせ目黒川の河川管理用通路と一体となった空間整備を実施 ・しながわ水族館と船着場および周辺観光資源が連携した新たな水辺活用企画を検討・実施
方針２ 水辺とまちの回遊性を高める取組	１）まちと水辺をつなげる	（１）公共交通との連携 （２）まちと水辺を歩いて楽しめる取組の推進 （３）しながわ花海道の再整備によるまちの回遊性向上	・水辺への新たなサイクルポート設置など運営事業者との連携によりエリアを拡大 ・目黒川エリアにおいてエリアマネジメント等と連携し、水辺を楽しめる仕組みの検討・実施を支援（写真③） ・水辺の回遊性・利便性向上に向けて、しながわ花海道を再整備（勝島人道橋、しながわ花海道等）
	２）水辺を魅力的につなげる	（１）水辺に顔を向けた建築物の誘導 （２）河川管理用通路および転落防止柵の整備改善 （３）水辺を活かしたライトアップ空間の充実	・建物の建替え等に合わせ事業敷地と一体となった河川管理用通路の整備や転落防止柵の改修を検討 ・水辺のにぎわい創出に向けた橋梁ライトアップの新たな演出を検討（写真④）
	３）河川と運河をつなげる	（１）水辺を回遊できる舟運の推進	・観光クルーズ事業の実施と支援および民間事業者による定期航路事業の支援（写真⑤）
方針３ 誰でも使いやすい水辺利活用の仕組みをつくる取組	１）水辺への関心を高める	（１）水辺に関する魅力の情報発信 （２）水辺利活用の効果の計測・情報共有	・多様なツールを活用した情報発信の在り方の検討と効果的なPRの実施 ・回遊性向上の取組についての効果計測（人流計測等）や検証を実施
	２）日常利用を支える仕組みをつくる（利益考慮）	（１）舟運事業活性化に向けた運航ルール化 （２）河川・空間のオープン化の推進	・目黒川や天王洲運河における運航ルールの策定や水辺の安全利用ルールの周知・啓発 ・天王洲運河や勝島運河沿いの護岸や水辺広場などの柔軟な利用について検討・協力
	３）多様な主体を巻き込む	（１）まちづくり計画との連携 （２）持続的かつ発展的な組織体制の検討	・「天王洲アイル未来ビジョン」などにおける公共空間利活用に向けた社会実験や取組への支援 ・実務者レベルでの意見交換会を適宜実施し、情報の共有化

①河川等の水質改善

②非動力船活動の定着

③水辺を楽しめる取組

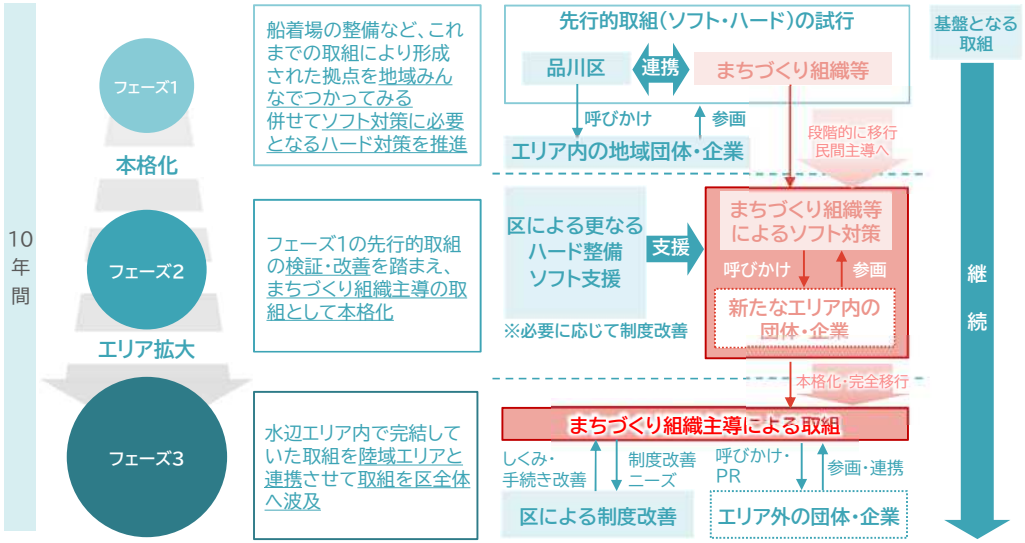
④ライトアップの新たな演出検討

⑤舟運事業の充実

5 目標達成に向けた進め方

■ 目標達成に向けた進め方

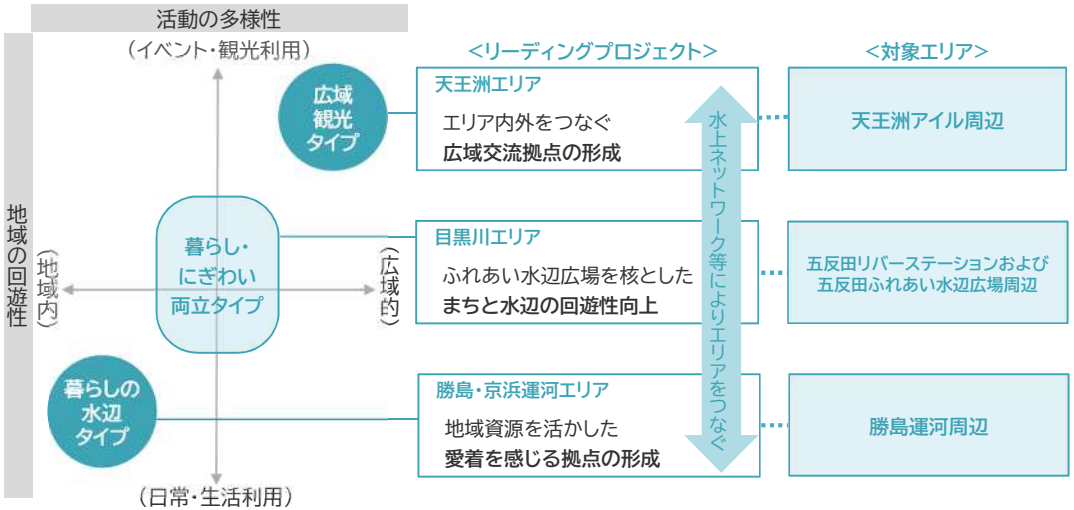
本計画は、水辺利活用を支える基盤となる取り組みを継続するとともに、水辺利活用に資する取り組みを３年程度ずつの３段階に分け、官民連携により推進する中で、取り組みの担い手を**行政主体から地域（民間）主導へ移行**していくことを目指します。



■ リーディングプロジェクト

水辺利活用推進計画全体を進める上で、核となる先導的なプロジェクトのことをリーディングプロジェクトとして展開します。

本計画では、**「活動の多様性」**と**「地域の回遊性」**という２つの軸から、**特性の異なる3つのタイプ**に分類します。**それぞれのタイプごとにリーディングプロジェクトを設定し、対象エリアを決めて、「官民連携」「ハード・ソフト」が一体となった取組を実施します。**



6 計画の実現に向けて

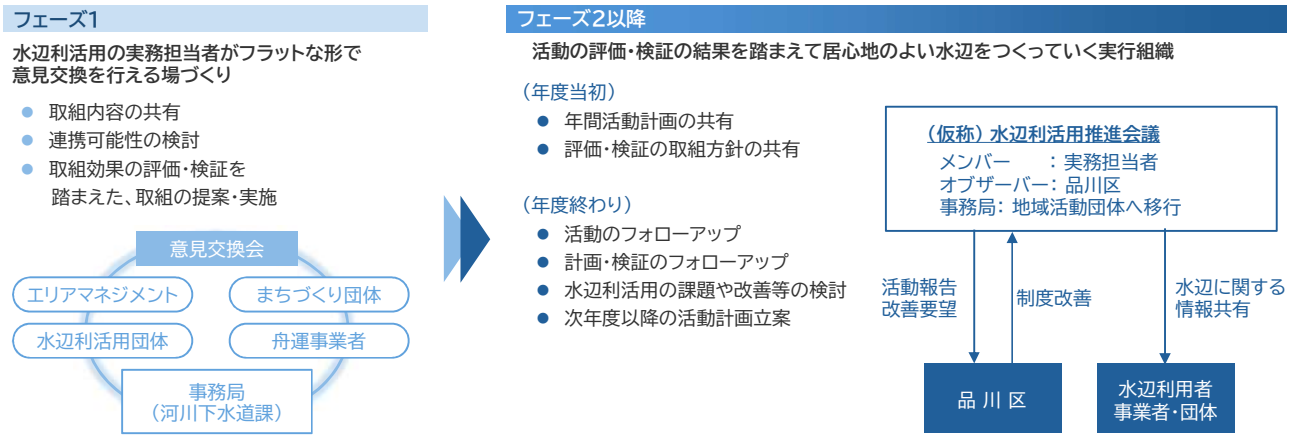
■ 目標達成に向けた進め方

本計画においては、10年後の2034（令和16）年度に達成すべき目標を以下のように設定します。

目標（これからの水辺に望むこと）	評価指標
（目標1） 多くの人が水辺空間を満足していること	**（評価指標①）水辺空間の質** 水辺空間が満足・どちらかといえば満足の人の割合 39.4%（R6）→55.0%（R16）
（目標2） 日常的に人が多く集まること	**〈評価指標②〉利用頻度** 週1日以上利用する人の割合 24.3%（R6）→50.0%（R16）
（目標3） まちと水辺の回遊性が高いこと	**〈評価指標③〉水辺の散策利用者** 区民の水辺散策利用者の割合 53.5%（R6）→ 60.0%（R16）
（目標4） 水辺で憩い、楽しむ滞在型の利用が多いこと	**〈評価指標④〉活動実態** 通行・散歩以外の活動※項目数 ※ジョギングや休憩、イベント参加など （区民1人当たり平均） 平均0.9項目（R6）→平均1.4項目（R16）

■ 計画の評価・検証

フェーズ１とフェーズ２以降の２段階で、行政主体から民間主導の評価・検証に移行することを想定しています。



エリアの将来目標

舟運の活性化や運河沿いの商業施設と連携した景観形成による賑わいの創出

本計画における目標
ーブランドイメージー

品川区の水辺の玄関口となる
広域交流拠点づくり

ー水辺とアートの映えるまちー

【リーディングプロジェクトの概要】

- エリア内外の回遊性向上を図るため「東品川二丁目船着場周辺」「天王洲アイル第三水辺広場周辺」および「東品川海上公園周辺」で一体的な取り組みを推進し**“広域交流拠点”**を形成します。
- 「アートになる島 ハートのある街」をテーマにしたエリアであり、資源を活用した魅力的なまちを目指します。

展開に向けた取組内容

太字：先行的取組

品川区の主な取組

拠点形成
- ・旧東品川清掃作業所跡地の在り方検討
- **・東品川二丁目船着場の改良**

回遊性向上
- **・定期航路事業の支援**
- ・案内サイン等の機能充実
- ・新たなモビリティ等の導入による回遊性の向上

にぎわい創出
- **・水辺に関する魅力の情報発信**

取組の効果・検証を踏まえ実行・改善

まちづくり組織等の主な取組

拠点形成
- ・非動力船の新たな活用（SUPなど都市型アクティビティの展開）
- ・日常的な水辺利活用の推進（天王洲アイル未来ビジョンとの連携）

回遊性向上
- **・観光クルーズ事業の実施**
- ・民間等と連携した水辺を活かしたライトアップ空間の充実

にぎわい創出
- ・運河沿いの護岸や水辺広場のオープン化による柔軟な民間利用の促進
- ・品川浦周辺地区におけるまちづくりとの連携

将来展開イメージ

さらなる水辺のにぎわいを創出し、水辺とアートを核にした新たな水辺文化が感じられるエリアになります

◆ 水辺のにぎわいがまち側にも波及しています

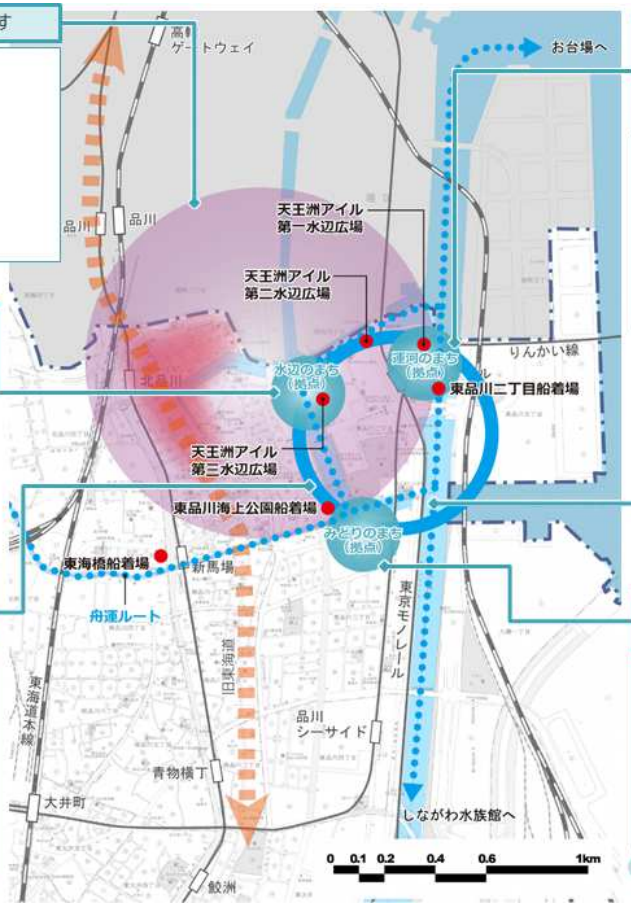
主な取組
- 新たなモビリティ等の導入による回遊性の向上
- 水辺に関する魅力の情報発信
- 品川浦周辺地区におけるまちづくりとの連携

◆ まちづくり組織の取組と連携して水辺の日常利用が盛んです

主な取組
- 日常的な水辺利活用の推進（天王洲アイル未来ビジョンとの連携）
- 運河沿いの護岸や水辺広場のオープン化による柔軟な民間利用の促進

◆ 水辺とアートを使ったエリアの回遊性が向上しています

主な取組
- 民間等と連携した水辺を活かしたライトアップ空間の充実
- 案内サイン等の機能充実



◆ 都内随一の船着場として区内外の多くの人に利用されています
◆ まち、水辺、水面をつなぐハブ拠点としての機能が強化されています

主な取組
- 旧東品川清掃作業所跡地の在り方検討
- 東品川二丁目船着場の改良

◆ 観光だけでなく通勤などの日常利用も行われています

主な取組
- 観光クルーズ事業の実施
- 定期航路事業の支援

◆ 地元団体の主導により、様々な水上アクティビティが行われています

主な取組
- 非動力船の新たな活用（SUPなど都市型アクティビティの展開）

エリアの将来目標

水辺を活かした回遊性の向上と観光・交流軸の形成

本計画における目標
ーブランドイメージー

日常と非日常を彩る
にぎわいのある空間づくり

ーおしゃれで楽しい水辺のまちー

【リーディングプロジェクトの概要】

- 目黒川沿川に住む人や働く人が、日常的に**利用したくなる水辺**として**にぎわい空間の創出を目指します。**
- **居心地が良い水辺**と**沿川景観が楽しめる舟運**により、まちと水辺の回遊性向上を図り、地域全体でおしゃれで楽しいまちを目指します。

展開に向けた取組内容

太字：先行的取組

品川区の主な取組

回遊性向上
- **・橋梁等ライトアップの新たな演出方法の検討**
- **・景観性などに配慮した水辺を視認しやすい転落防止柵への改修**
- **・定期航路事業の支援**
- ・水辺とまちの回遊性を高める案内板、誘導サインの設置
- ・目黒川の水質改善（障害物撤去や効果的なしゅんせつの検討・実施）

にぎわい創出
- **・五反田ふれあい水辺広場周辺の今後の在り方整理**
- ・非動力船と動力船の共存に向けた運行ルールの策定

取組の効果・検証を踏まえ実行・改善

まちづくり組織等の主な取組

にぎわい創出
- **・五反田ふれあい水辺広場等における商業・飲食サービスの充実**
- **・日常的な水辺の魅力発信イベントの実施**
- ・JR大崎駅に近接した船着場の整備推進

回遊性向上
- **・水辺の回遊性を高める水辺への装飾などの実施検討**
- ・目黒川クルーズの継続実施（舟運の日常化）
- ・商店街と連携した水辺利活用の推進

将来展開イメージ

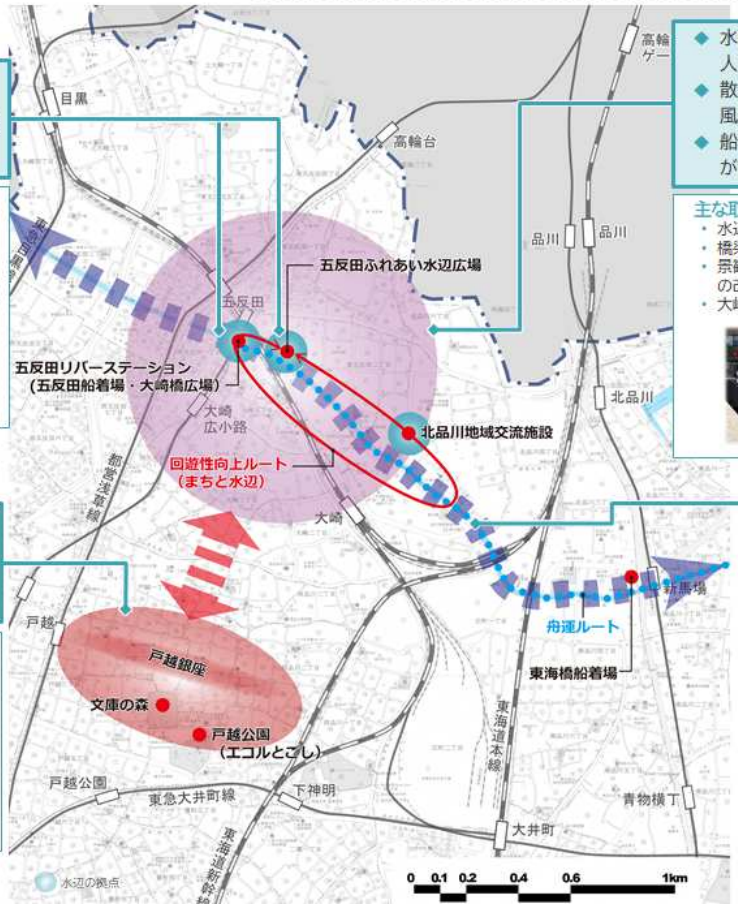
日常的なおしゃれ空間として、いつ訪れても笑顔と笑い声が絶えないエリアとなります

◆ ランチを楽しむ人、水辺を眺めながら会話を楽しむ人、会議やヨガ、体操、散策など、それぞれの利用を満喫しています

主な取組
- 五反田ふれあい水辺広場周辺の今後の在り方整理
- 五反田ふれあい水辺広場等における商業・飲食サービスの充実
- 日常的な水辺の魅力発信イベントの実施

◆ 水辺の魅力を感じ、周辺の商店街からの来訪者や健康づくりのウォーキングを行う人が増加しています

主な取組
- 水辺とまちの回遊性を高める案内板、誘導サインの設置
- 商店街と連携した水辺利活用の推進



◆ 水面を眺めながら散歩やウォーキングを楽しむ人が増加しています
◆ 散歩の途中でベンチに座り、語り合う、笑い合う風景も日常のものになっています
◆ 船着場が拠点となり、他交通機関との人の流れが活発になっています

主な取組
- 水辺の回遊性を高める水辺への装飾などの実施検討
- 橋梁等ライトアップの新たな演出方法の検討
- 景観性などに配慮した水辺を視認しやすい転落防止柵への改修
- 大崎駅に近接した船着場の整備推進

◆ 四季を通じて、日常的に船が行き交うようになっています

主な取組
- 目黒川クルーズの継続実施（舟運の日常化）
- 定期航路事業の支援
- 目黒川の水質改善（障害物撤去や効果的なしゅんせつの検討・実施）
- 非動力船と動力船の共存に向けた運行ルールの策定

エリアの将来目標

地域資源等と一体となった回遊性の向上と水に親しむことができる環境づくり

本計画における目標
ーブランドイメージー

郷土の魅力を感じる水辺づくり

ーふるさとの魅力が輝くまちー

【リーディングプロジェクトの概要】

- 子どもからお年寄りまで、楽しみながら地域のことがより一層好きになり**地域から愛される水辺拠点の形成を図ります。**
- エリア内に点在する**歴史資源**や**しながわ水族館**および、**しながわ花海道**の取組と、まちの探求学習などの新たな取組とを融合させることで、水辺のさらなる魅力向上を図ります。

展開に向けた取組内容

太字：先行的取組

品川区の主な取組

拠点形成
- しながわ水族館のリニューアル
- しながわ水族館と船着場が連携した水辺活用企画検討

回遊性向上
- **しながわ花海道の再整備（（仮称）勝島人道橋・しながわ花海道・新浜川公園）**

魅力向上
- 立会川および勝島運河の水質改善
- 民間施設のライトアップと合わせた護岸・橋梁のライトアップの検討

取組の効果・検証を踏まえ実行・改善

まちづくり組織等の主な取組

拠点形成
- しながわ花海道プロジェクトの推進（地元小学生や企業などによるコスモス・菜の花の種まき）
- 小型浮桟橋を拠点とした地域による水上アクティビティ活動の実施

魅力向上
- 鮫洲入江広場を活用したイベント等の開催
- 小中学校への出前授業・フィールドワークなどのまちの探求学習の取組推進（NPOしながわ花海道作成のお散歩案内の活用）

将来展開イメージ

子どもからお年寄りまで誰にでも愛された、より一層誇りを持てるエリアになります

◆ 花海道の魅力がさらに向上することで、花海道プロジェクト参加者が増加しています
◆ 本エリアを核として地域の人に愛される憩いの場になっています

主な取組
- しながわ花海道プロジェクトの推進（地元小学生や企業などによるコスモス・菜の花の種まき）
- しながわ花海道の再整備（（仮称）勝島人道橋・しながわ花海道・新浜川公園）

◆ 子どもたちを中心にEボートやカヌーを楽しんだり、自然観察をする姿が増えています

主な取組
- 小型浮桟橋を拠点とした地域による水上アクティビティ活動の実施
- 立会川および勝島運河の水質改善

◆ 水辺の魅力と地域の歴史・観光資源を結びつけた活動を通じて、地域のよさを、多くの人が実感しています

主な取組
- しながわ水族館のリニューアル
- しながわ水族館と船着場が連携した水辺活用企画検討

◆ 子どもたちが生き物や水質を学ぶ機会が増えています
◆ ライトアップにより水辺を歩く人が増加しています

主な取組
- 小中学校への出前授業・フィールドワークなどのまちの探求学習の取組推進（NPOしながわ花海道作成のお散歩案内の活用）
- 民間施設のライトアップと合わせた護岸・橋梁のライトアップの検討

◆ 花の鑑賞や生き物観察などを通じて水辺への理解を深める場所として活用されています
◆ 水辺の拠点として様々なイベントが開催され、子どもたちの声がこだましているのが印象的です

主な取組
- 鮫洲入江広場を活用したイベント等の開催